

* 流行ニュース

< 急性呼吸症候群、中国 (更新) >

2003年2月20日、中国厚生省の発表によると広東省で計305人が感染、5人が死亡した肺炎の感染原は、恐らくクラミジア肺炎と考えられる。現在も、疫学調査が進行中である。 参照：No.7,2003,p41

< エボラ出血熱、コンゴ (更新) >

2003年2月25日、研究機関はコンゴで死者77人を含む90症例(致死率81%)がエボラ出血熱に感染した疑いを発表した。臨床管理の専門家と後方支援者がコンゴ厚生省とWHOによる国際チームに参加した。隔離病棟がKelleとMbono地区の病院で設立され、患者を受け入れている。 参照：No.8,2003,P49

< インフルエンザ A(H5N1)型、中国の香港特別行政区 (更新) >

2003年2月20日、香港の厚生局は2月17日香港内の病院で死亡した男性(33)がインフルエンザ A(H5N1)型ウイルスの感染者であったと確認した。この男性は2月19日にA(H5N1)型と診断された少年の父親である。2例とも1月にFujian 省(中国)に旅行しており、他の同行した家族2名も健康を害している。香港の厚生当局は、この流行の感染源を決定するために研究と疫学調査を継続している。さらに、遺伝子連鎖の解析を含む研究機関での研究が計画されている。 参照：No.8,2003,pp49-50

今週の話題：

< 2003-2004年の流行シーズンに推奨されるインフルエンザワクチンの組成 >

この勧告は北半球の次期冬季(2003年11月~2004年4月)に関して推奨されるインフルエンザワクチンの組成に関するものである。南半球の冬季(2004年5月~10月)に使用される予定のワクチンの推奨は2003年10月に作成される。

* インフルエンザの活動 (2002年9月~2003年2月)：

2002年9月から2003年2月まで、インフルエンザはアフリカ、アメリカ、アジア、ヨーロッパおよびオセアニアで報告された。インフルエンザ A型およびB型の流行が北半球の国々で報告されている。ほとんどはB型の流行であったが、数カ国ではA(H3N2)型が、カナダでのみA(H1N2)型が優勢であった。A(H1N1)型は低水準であった。全般的に今期のインフルエンザ活動は軽度から中程度であった。

A(H1N1)型はアフリカ、アメリカ、アジア、ヨーロッパで分離された。

A(H1N2)型はアメリカ、ヨーロッパで分離された。A(H3N2)型はアフリカ、アジア、ヨーロッパで流行が報告され、アフリカ、アメリカ、アジア、ヨーロッパ、オセアニアで分離された。

B型はアメリカ、アジア、ヨーロッパで流行が報告され、アフリカ、アメリカ、アジア、ヨーロッパ、オセアニアで分離された。(以上、国名はWER参照)

* 最近分離されたウイルスの抗原性の特徴：

感染後フェレット血清による赤血球凝集抑制(HI)テストにおいて、A(H1N1)型とA(H1N2)型ウイルスの大部分はA/New Caledonia/20/99と密接に関連していた。HIテストでA(H3N2)型ウイルスは異質性を認めた。大部分のウイルスはA/Moscow/10/99やA/Panama/2007/99ウイルスと密接に関連しており、最近の分離株の多くはA/Panama/2002/99と識別され、A/Fujian/411/2002と類似している(表1)。

HIテストでB型ウイルスの大部分は、B/Hong Kong/330/2001とB/Brisbane/32/2002と密接に関連していた。B/Hong Kong/330/2001様ウイルスの大部分は、B/Sichuan/379/99様ウイルスと密接に関連するノイラミダーゼを保有する再配列型であった。

表1：インフルエンザ A(H3N2)ウイルスの感染後フェレット血清によるHIテストの結果

| 抗原 | A/Moscow/10/99 | A/Panama/2007/99 | A/Fujian/411/2002 |
|------------------------|----------------|------------------|-------------------|
| A/Moscow/10/99 | 640 | 320 | 40 |
| A/Panama/2007/99 | 320 | 640 | 80 |
| A/Fujian/411/2002 | 160 | 160 | 1280 |
| 最近の分離株 | | | |
| A/Thailand/1170/2002 | 320 | 1280 | 160 |
| A/Paris/207/2002 | 320 | 640 | 80 |
| A/Egypt/919441/2002 | 640 | 640 | 80 |
| A/Dakar/50/2002 | 320 | 1280 | 80 |
| A/England/455/2002 | 320 | 640 | 320 |
| A/Beijing/301/2002 | 160 | 80 | 640 |
| A/Korea/770/2002 | 80 | 80 | 640 |
| A/Massachusetts/1/2002 | 80 | 80 | 1280 |
| A/Osaka-C/70/2002 | 80 | 80 | 640 |

* 不活化インフルエンザウイルスワクチンによる研究

赤血球凝集素に対する抗体が、A/New Caledonia/20/99 (H1N1)、A/Panama/2007/99 (H3N2)、および B/Shandong/7/97 もしくは B/Hong Kong/1434/2002 といった各血球凝集素 15 µg を投与した三価の不活化ワクチンの接種者の血清パネルから HI テストによって測定された。

A/New Caledonia/20/99 (H1N1) を含むワクチンは、成人の 78% と老人の 66% の血清に対して力価 40 以上で HI 抗体産生を刺激した。H1N2 を含む分離株において抗体の力価と出現頻度は類似していた。

A/Panama/2007/99 (H3N2) を含むワクチンは、成人の 71% と老人の 78% に対して力価 40 以上で HI 抗体産生を刺激した。A/Panama/2007/99 (H3N2) 様の分離株において抗体の力価と出現頻度は類似していた。A/Fujian /411/2002 様の分離株において抗体の力価は低かった。

B/Hong Kong/330/2001 様の抗原を含むワクチンは、成人の 70% と老人 66% の血清において力価 40 以上で HI 抗体産生を刺激した。B/Hong Kong/330/2001 様の分離株において抗体の力価と出現頻度は類似していた。B/Sichuan /379/99 様の分離株において力価は低かった。

* インフルエンザウイルスワクチンの組成に関する勧告

2003 年～2004 年の北半球の冬に使用するワクチンは下記を含むよう奨励する：

A/New Caledonia/20/99(H1N1)様のウイルス

B/Hong Kong/330/2001 様ウイルス¹

A(H3N2)の組成は 2003 年 3 月 14 日に発表予定

¹現在使用中のワクチン種は B/Shandong/7/97、B/Hong Kong/330/2001、B/Hong kong/1434/2002 を含む。不活化ワクチンの実験室用の標準化に使用する試薬の入手先および抗原性の分析のための株の照会の依頼は、WER.P62 参照。

< WHO/UNAIDS HIV VACCINE INITIATIVE による治験成果を増加させる研究加速への呼びかけ >

バイオテクノロジー企業・VaxGen からの 2003 年 2 月 24 日付けの発表は、AIDS ワクチンの大規模な予備試験によって一部の人々に HIV 感染の予防が可能になったことを示唆した。AIDSVAX ワクチンの試験ではサンプルサイズは小さいながらコーカサス以外の人々、特にアフリカ系アメリカ人に予防効果があることが示された。しかし、参加者の大部分であるコーカサス人は、ワクチンの効果が最小であった。この企業は追加研究によって数週間の内にさらに明らかなデータを導くとしている。

この試験的ワクチンは前途有望な第 1 歩であるが、広範囲に予防できる効果的なワクチンは存在しない。AIDSVAX 第 3 段階の試験は、ヒトに対して初めて実施された大規模な HIV ワクチンの治験であり、カナダ、オランダ、アメリカ合衆国の 5,400 人以上の志願者（殆どが同性愛者の男性）を対象とした。第 3 段階の試験は、ワクチンの効果と服用者に対する安全性を確認する事が目的であり、第 1 と第 2 段階でワクチンが安全でウイルスに対し免疫反応を誘導することを確認した時のみ実施された。この試験で使用されたワクチンは、アメリカ、西ヨーロッパ、オーストラリアおよびニュージーランドで流行している HIV 亜系 B 型感染の感受性を削減するために計画された。今までに HIV-1 の 11 亜系が確認されている。研究の主な目標の一つは HIV の全ての主要な亜系に対して効果的なワクチンの開発である。

WHO 事務総長は HIV ワクチンの研究の継続の全世界での差し迫った必要性を述べている。また、政府、民間団体、国際社会が強固なワクチン研究の計画を維持し、効果的な予防、介護、治療計画が利用出来る事を確実にしなければならないとも述べている。

流行ニュースの続報：

< インフルエンザ続報 >

チェコ共和国（2003 年 2 月 15 日）¹急性呼吸器感染者数が増加し、2 月の第 2 週にインフルエンザの活動がピークになった。特に Prague と Moravia 地域でインフルエンザ A (H1N1) 型、A (H3N2) 型および B 型ウイルスが分離された。最も感染している年齢層は学童であった。

アイスランド（2003 年 2 月 22 日）²インフルエンザ活動は依然として低水準で A 型と B 型の散発的な症例が検出された。

スロヴァキア（2003 年 2 月 15 日）³インフルエンザの流行は 2 月第 2 週から報告されている。今シーズン初めに分離されたインフルエンザウイルスは現在のワクチン種の A/Panama/2007/99 と類似している。スイス（2003 年 2 月 15 日）¹伝染性インフルエンザは 2 月第 2 週に国レベルに達した。医療診断数はスイスの 6 地方中 5 ケ所で伝染閾値を越えた。B 型は全般的にフランスの Rhone-Alpes 地方に面する西部地方で検出された。一方、東部では A 型のみが検出された。A、B 型ウイルス両方が中部で分離された。ウクライナ（2003 年 2 月 15 日）¹インフルエンザ A (H3N2) 型の局所的な流行が 2 週連続しており、感染者の多くは学童である。A (H1N1) 型と B 型ウイルスが過去 2 週間の流行期間中に分離された。

参照：¹No.8,2003,p.54、²No.6,2003,p.39、³No.4,2003,p.24

（寺尾紘、川口優子、川又敏男）